35周年

見どころ満載！川内歴史資料館

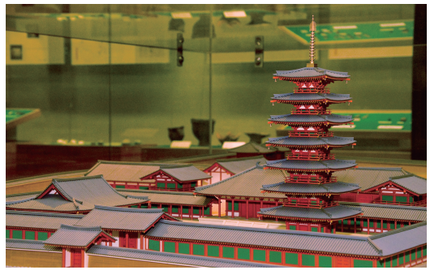
川内歴史資料館は、昭和59（1984）年、郷土の歴史、文化資料を収集・保存・展示する目的で開館し、今年で35周年を迎えました。収蔵品は約9300点にもおよび、薩摩国府・薩摩国分寺跡にまつわる出土品や、薩摩国分寺復元模型、平佐焼、昭和初期ごろの復元民家展示のほか、川内地域の歴史に関する資料を多数保管。市民の文化の向上を図り、学習活動や調査研究の場として活用されています。

問合先／川内歴史資料館
中郷二丁目2番6号
☎（20）2344

▲国分寺跡出土鬼瓦

▲弥生土器

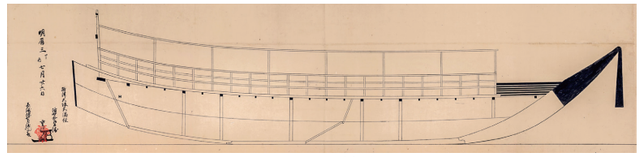
▲「破壊される人間」生頼範義 作（油彩F 600号）
県立川内高校卒の日本を代表するイラストレーターである、生頼氏が戦争の悲惨さを表現した作品。同氏は、映画「スター・ウォーズ」「ゴジラ」などのポスター制作や本の装丁、挿絵などを手掛けている。（特別展示期間中は観覧できません。ご了承ください。）



▲薩摩国分寺復元模型

◀復元民家
昭和初期ごろの民家の居間を復元。食事や団らんの場であったナカエには、いろりがあり、ウスニワには、かまどがある。
＊ナカエ：煮炊き・農作業を行う床上の空間からなる建物
＊ウスニワ：土間のこと

▲国衙執務風景模型



▲船大工樗木家関係資料（国指定重要文化財）
川内川左岸の久見崎には薩摩藩の軍港があり、代々船大工を務めていた樗木家に伝わった造船関係資料。

◀天狗煙草の看板
嘉永2年向田生まれの岩谷松平は、岩谷天狗の異名を持ち、奇抜な商法と宣伝によって、たばこ界の王座に君臨した。

◀平佐焼
平佐領主北郷家の庇護を受けた肥前有田系の磁器。日用品から美術品まで生産されていたが、昭和初期に廃窯となった。

※特別展示などの会場設営の都合上、公開できない資料がありますのでご了承ください。

薩摩川内にまつわる歴史キーワード

薩摩国分寺

国分寺は天平13（741）年、全国に建立された祈願寺。疫病や飢饉、反乱などの災いを緩和し、国家の平安と国民の幸福を願う天皇の詔勅により建立されました。

薩摩国府

律令体制下、国の統治のため、各地に国府と呼ばれる官庁が配置されました。大宝2（702）年、川内の地へ設置され、中央から任命された国司が執務に当たっていました。

天平宝字8（764）年には、万葉集の編さんで知られる大伴家持が任命され、1年余り在任したといわれています。

資料館近くを流れる銀杏木川沿いは、新元号「令和」の出典元となった万葉集にちなんだ散策路「万葉の散歩道」があり、万葉集に歌われる15基の歌碑が設置されています。

薩摩国分寺跡史跡公園

昭和43年（1968）年から発掘調査が始まり、南北約130m、東西約118mの区域内に国分僧寺の建物が建っていたことがほぼ判明しています。

その後、9年にわたる発掘調査と整備事業により、国指定史跡薩摩国分寺跡史跡公園として昭和60（1985）年に開園しました。

豊臣家・島津家　和睦の儀

天正15（1587）年、九州制圧を企てた豊臣秀吉率いる豊臣軍と島津義久率いる島津軍が平佐城で戦闘を繰り広げました。大勢不利と決した義久は、大小路町の泰平寺において、秀吉に降伏しました。泰平寺には、和睦の記念として立てたといわれる「和睦石」が今も残されています。

参加してみよう！川内歴史資料館の催し

■開催中または開催予定の企画案内

〈島津義弘没後400年記念特別展〉
「南九州の雄 島津氏～戦国時代の薩摩川内～」
10月14日（月）まで

〈終戦記念展示コーナー〉
「記憶をつなぐ～戦争と郷土～」
9月23日（月）まで

〈トピック展示〉
「戦国期澁谷氏の興亡の軌跡」
9月29日（日）～12月1日（日）
「収蔵資料紹介」
10月29日（火）～11月24日（日）

〈工作教室〉
「ダンボール甲冑作り」
9月29日（日）
「絵手紙　とらの絵」
10月27日（日）

開館時間／9時～17時
（入館は16時30分まで）

入館料／
▼大人＝200円
▼小・中・高校生＝100円
＊土・日曜日、祝日は、小・中・高校生の入館料は無料
＊詳しくは、問い合わせください。

川内歴史資料館
学芸施設学芸係
出来　久美子 さん

皆さんに気軽に立ち寄っていただける資料館をテーマに取り組みを続けています。当館の歴史講座や工作教室に参加することで、歴史の面白さや奥深さを知っていただきたいです。特に子どもの頃から歴史に触れると、大人になってからも記憶に残り、人に話すことができるようになります。

川内歴史資料館
学芸施設課長代理
吉本　明弘 さん

薩摩川内は薩摩国府を有した土地であり、島津本家の人たちが在住していた土地でもあります。本市の歴史的資質は全国的に見てもかなり高い水準のものであると考えます。この歴史資源のすばらしさを市全体に広げていくために創意工夫していきたいです。

川内歴史資料館
館長
中島　哲郎 さん

薩摩川内は古代から薩摩國の中心としての歴史があり、市民憲章にも「～古い歴史を誇りとする～」とうたわれています。その悠久の歴史を市民の皆さまへ伝えるため今後も「川内まごころ文学館」ともども開かれた館として時を刻んでいきます。